

# 『方丈記』大地震PVを作る ～地震災害の恐ろしさを『方丈記』で学ぶ～

- ▶ **テーマ** 古典を現代に活かす  
『方丈記』の災害を現代のものとして読んでみる
- ▶ **対象** 高校生
- ▶ **教材** 『方丈記』本文「大地震」プリント配布  
タブレット、古語辞典、筆記用具

中央大学杉並高校  
教諭  
菊地明範

## 授業のねらい

- 高等学校の国語科「古典探究」の授業で実施。
- 『方丈記』の地震の箇所の朗読に、震災の映像を重ねてみる。
- ニュースなどの「選ばれた映像」ではなく、自分で映像を探しに行く作業から学びを深める。

### 監修

諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会会長  
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コラボレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ…→

### 導入 1

『方丈記』「元暦の大地震」を読む。

- ・通常の古典の授業として「大地震」を読み進める。
- ・丁寧に現代語訳してみる。
- ・『方丈記』が災害文学として2011年以降再評価されている点を認識する。
- 「安元の大火」「治承の辻風」「養和の飢饉」「疫病」「元暦の大地震」
- ・これまで読んだ現代作品『羅生門』なども引用して当時の有様について想像してみる。
- 既習の『平家物語』などの話を交えながら、「末法」からの災害続き・人災続きの平安末期の時代相を説明し「無常観」という世界観について説明

### 展開 1

『方丈記』「元暦の大地震」ここに描かれている大地震の現象を確認する。(トピックに分ける)

- ・グループに分かれて一つひとつの現象(トピック)について確認する。
- ・一つひとつの現象(トピック)について現代ではどのように呼称しているか話し合ってみる。

### 導入 2

『方丈記』に描かれた災害は現代の災害とどう異なるか考える。

- ・「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」「令和6年能登大震災」などの記録映像を見ながら考えてみる。
- どんな災害が起こっていたのか?
- トピックごとに考えてみる
- 現代でいうとどんな現象・事象・ニュースなのか?

### 展開 2

グループごとに「元暦の大地震」朗読PVを作成する

- ・ネット上の写真を確認して、現代に起こっている災害を認識する。
- ・豊富なコンテンツの中から映像を見つける。
- 積極的に災害の状況を映像で学ぶ

- ・現代の災害映像をバックに『方丈記』「大地震」の本文を朗読する。
- スライドショーに録音し、Mp4の動画を作成(2分弱)

#### 《参考になるサイト》

- 東日本大震災100枚の記録写真特集(時事通信社)  
[https://www.jiji.com/jc/d4?p=lat216-jlp10579395&d=d4\\_quake](https://www.jiji.com/jc/d4?p=lat216-jlp10579395&d=d4_quake)
- 東日本大震災100枚の記録写真特集(朝日新聞フォトギャラリー)  
<https://www.asahi.com/special/hanshin-shinsai117/photo/>
- 阪神・淡路大震災「1.17の記録」(神戸市市長室広報戦略部)  
<https://kobe117shinsai.jp/search/>
- 未来へのキオク  
<https://www.miraikioku.com/>
- 東日本大震災写真保存プロジェクト(YAHOO JAPAN)  
<https://archive-shinsai.yahoo.co.jp/>
- 国土交通省東北地方整備局震災伝承館  
<https://infra-archive311.thr.mlit.go.jp/pic.html>
- NHK アーカイブス災害  
<https://www.nhk.or.jp/archives/saigai/>

### まとめ

古典作品(過去)を「現代」に活かしながらか読む

- ・お互いの動画を視聴し、それぞれの映像について話し合う。
- ・ニュース映像など受け身で視聴していた災害の状況を能動的に、テーマごとに検索し選ぶ作業を通して被害について学ぶ。
- ・これからの世の中(未来)で被害を減らす方法は何か考えてみる。



作品例

# 命を守るために 情報について考えよう

- ▶ **テーマ** 災害時の情報の入手方法・避難訓練を前に
- ▶ **対象** 中学部・高等部
- ▶ **教材** ワークシート、テレビ、各自のiPad、ケーブル、筆記用具

埼玉県立川島ひばりが丘  
特別支援学校

教諭  
齋藤朝子

※本授業プランは、前任校の埼玉県立  
日高特別支援学校での実践

## 授業のねらい

- 災害が起こる前に必要な情報の入手の仕方を知る。
- 動画を見ながら震度6弱の地震について確認し、避難訓練でどのように行動するか考える。

### 監修

諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会座長  
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コラボレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ…>

### 導入 1

#### 災害が起こる前に必要な情報を調べる方法を確認する

- ・気象庁のHPで週間天気を確認する。  
→検索につながる動機付けとして、QRコードを提示などして工夫
- ・毎日、天気予報を見ているか。  
→テレビのニュース・スマホの通知など
- ・天気予報を見て自分で意識することはあるか？  
→天気予報を見る意味（衣服の調節、傘などの用意、行動の修正等）を確認

- ・大きな地震が発生した時、どこで、どうやって震度を確認するか。  
→ニュース速報、スマホの通知、家族が知らせる、あまり関心が無い、など
- ※関心が無い、と答える生徒がいた場合、緊急地震速報で事前に地震が来ることが分かると自分たちに有利なことはないか考えられるようにする。  
→家庭の状況によってテレビを見ない、スマホがない、使わないなどの場合があるかもしれないのでその点も配慮
- ・天気や地震が事前に分かるといざという時慌てずに済むことを知る。

### 展開 1

#### iPadを使ってYahoo!天気から防災情報を確認する

- ・Yahoo!天気を開き、防災情報から「地震」「河川水位」「警報・注意報」を見る。  
→学校や家庭でもスマホやタブレット、パソコンを使って調べる方法があることを確認
- ・台風の時どこを見たらいいか、地震の時は……、とそれぞれの違いを確かめる。
- ・ハザードマップを見ることができると自分の市を確認する。  
→「防災手帳」⇒「ハザードマップ」

### 導入 2

#### 震度6弱の地震について確認する

- ・日高市のハザードマップが震度ごとに色分けされているのでそれを例にして確認する。  
→気象庁の震度階級関連解説表を見せて予測できるように
- ・テレビドラマ『日本沈没』の一部を視聴し、地震の大きさを予測する。  
→アスファルトやビルの倒壊の様子から深度がいくつくらいか予測の際のヒントに  
→衝撃のシーンもあるので心理的な動揺がないか確認しながら指導  
→ショックを受ける場合は、あくまでもドラマの中の話であることを説明

### 展開 2

#### 「地震マット」を使って実際に震度6弱の揺れを再現する

- ・体験は教員、生徒は見学。
- ・揺れる様子を見て想像できることを発表する。
- ・次の避難訓練では、この揺れが起こるとしたらどのように行動するかを考える。

### まとめ

#### 日常生活での習慣化について/次の避難訓練に向けた前振り

- ・毎日、家庭や学習前にiPadを使って確認する習慣をつけてみる。  
→おすすめアプリの一覧を配布
- ・次の避難訓練で今考えた通りに行動できるか？  
→難しい場合はその理由も考えて振り返る

#### 《おすすめのアプリ参考》

- ・ゆるくるコール  
緊急地震速報を通知してくれる。とにかく通知は早い
- ・特務機関 NERV 防災  
地震・津波・天気・台風など様々な防災情報を通知
- ・ウェザーニュース  
天気のこと全般、ARお天気シュミレーターもおすすめ
- ・Yahoo!防災速報  
Yahoo!天気・災害をすぐに見られるアプリ、防災手帳もおすすめ

# 自然災害への備え 津波避難タワーの設置について考える

テーマ ▶ 自然災害への備え  
対象 ▶ 高校生

高知県立高知東  
工業高等学校  
教諭  
笹川桂斗

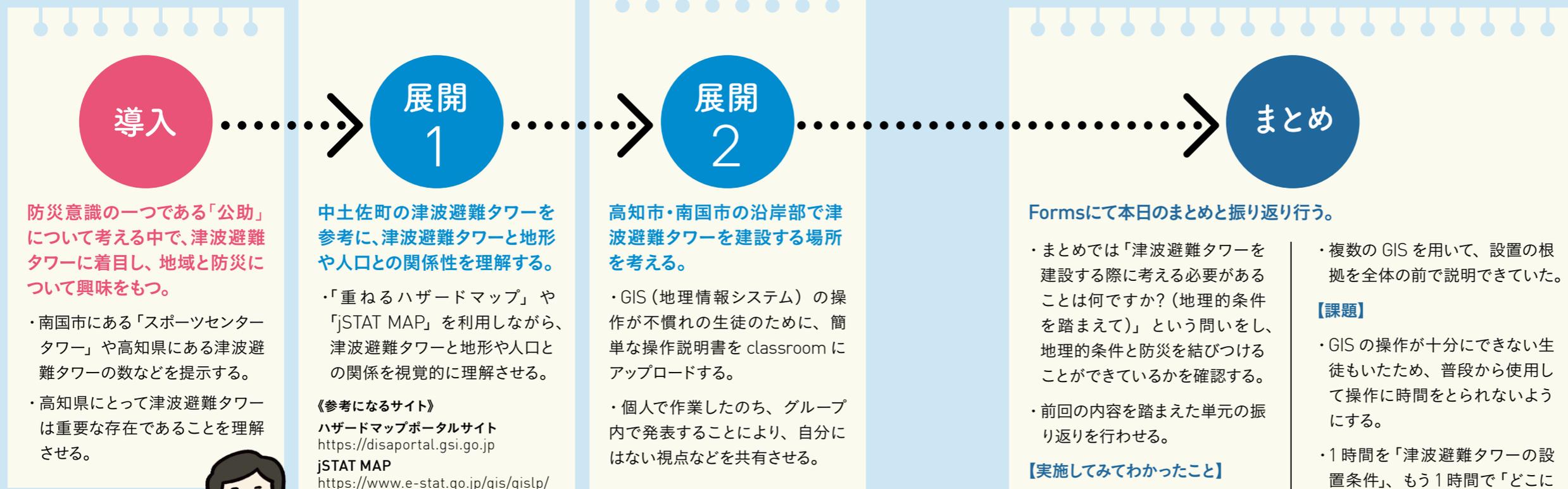
## 授業のねらい

- 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付ける。(知識・技能)
- 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能性な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。(思考・判断・表現)
- 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそので見られる課題を主体的に追求しようとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

監修  
諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会会長  
防災教育学会会長  
防災学習アドバイザー・コラボレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ…→



# 地震後に発生する 津波にどう対応する？

- ▶ **テーマ** 小学6年生
- ▶ **対象** PC、プロジェクターとスクリーン、紙パック(500ccか1ℓ)
- ▶ **教材** ハサミ、セロテープ、ホッチキス『防災手帳』  
※『防災手帳』は下記からダウンロード可能  
<https://shakai-ouen.com/publications/publications-340/>

防災教育実践交流会  
座長  
諏訪清二

## 授業のねらい

- 地域に固有の最大である地震と津波の関係を理解させる。
- 津波発生時にどのような避難行動をとればいいのかを理解させる。
- 津波発生時に避難するためにはまず倒壊家屋の下敷きにならないことが大切であることを理解させる。
- 牛乳パックを使った簡単な工作で、耐震の大切さを理解させる。

監修  
諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会座長  
防災教育学会会長  
防災学習アドバイザー・コラボレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ…→

### 導入 1

地域に固有の災害は何かを考え、『防災手帳』(P1~P2)に記入させる。

- ・P1では各項目を参考にチェックを入れ、P2ではチェックの数に応じて、色を塗る。
- ・過去に津波の被害がなくても、「海や川に近い」「海拔が低い」場所では、津波などの被害が発生する可能性が高いことや、古い建物は雪の重みで倒壊する危険性があるなど、さまざまな要因が重なって災害が起こることを伝える。

### 展開 1

動画で津波のメカニズムを学び、「より高く・遠く・早く」という津波避難の原則を理解させる。

- ・動画を見せるなどして、津波の高さや速さについて解説する。
- ・地震後に津波の発生が考えられる場合は、より高いところへ、より早く逃げる。そして海からより遠くに逃げることを伝える。

### 導入 2

倒壊家屋の写真を見せ、避難するためには、家の下敷きにならないことが大切であると理解させる。

- ・地域に古い建物や川などがあるか子どもたちに問いかける。
- ・古い建物がある場合、地震で倒壊して下敷きになったら避難できなくなってしまうこと、津波が押し寄せると大量の水が川を逆流してくる可能性があることを伝える。

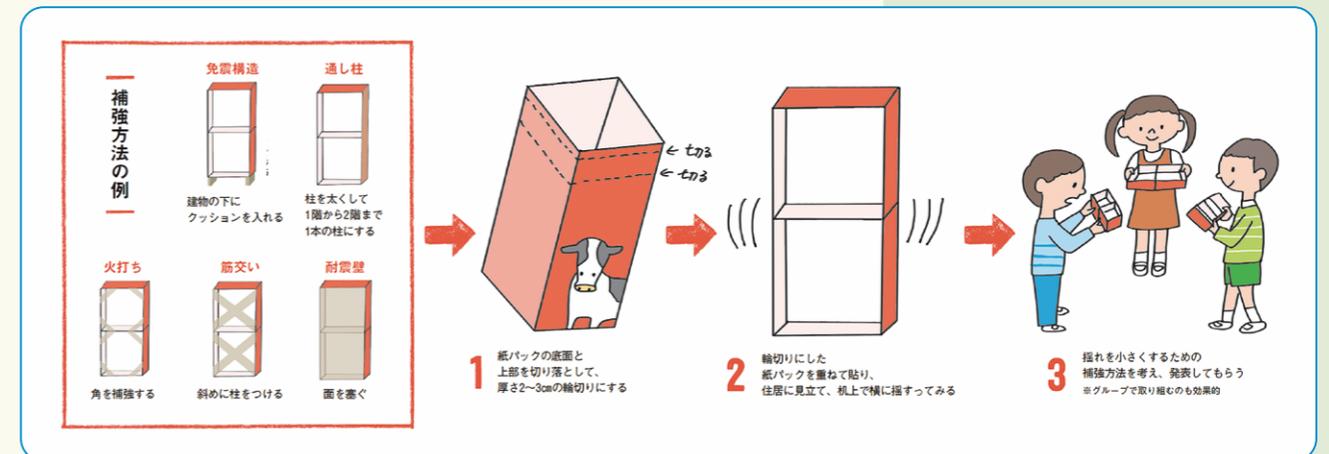
### 展開 2

紙パックを使って耐震モデルを作成し、工夫したところを発表させる。

- ・紙パックを切って、2階建ての家を作らせる。
- ・地震の時の家の状態をイメージさせ、どうすればあまりゆれないようになるか、残りの紙パックを使って補強するように促す。

### まとめ

授業に内容に触れながら、「地域の災害を知ること」「災害に備えること」「災害発生時に適切に行動すること」の3つが大切であると伝える。



# 「ぐらぐら妖怪」を探せ! (小学部1・2年生 生活科〈特別支援学校〉)

- テーマ**▶ 安全について考える。  
「危ない場所を見つける」「危ない場所から離れる」  
「危ない場所を認識する」。
- 対象**▶ 小学部1・2年生
- 教材**▶ ナマズを模した「ぐらぐら妖怪」イラスト  
妖怪は普段は見えないが災害が起きると現れ被害を  
及ぼすという江戸時代の話引用

埼玉県立川島ひばりが丘  
特別支援学校

教諭  
齋藤朝子

※本授業プランは、前任校の埼玉県立  
日高特別支援学校での実践

## 授業のねらい

- 特別支援学校小学部の生  
活科の「安全」領域で実施。
- 妖怪の棲む場所に共通する  
ことを理解する。
- 危険箇所を「ぐらぐら妖  
怪」で可視化し日常から意  
識づける。

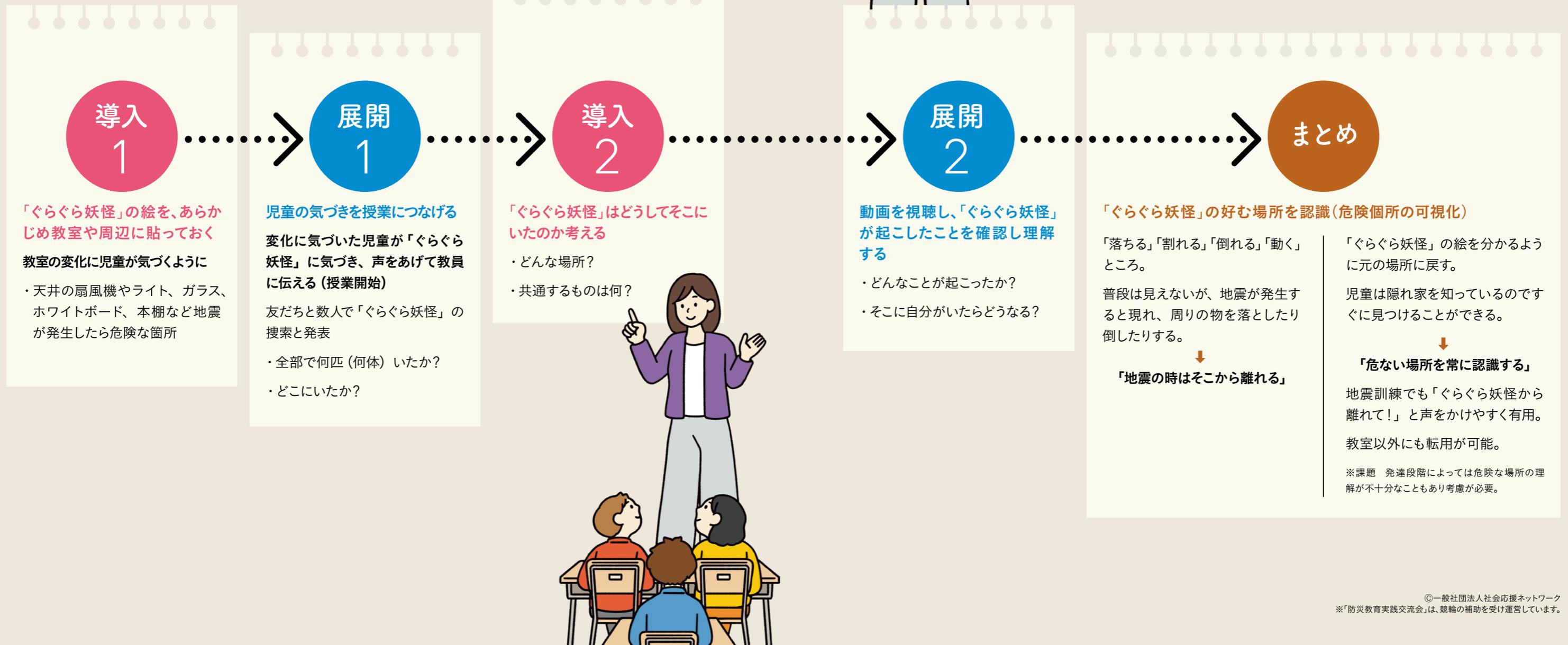
### 監修

諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会会長  
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コ  
ラボレーター。国内外で  
防災教育のプロジェクトに  
関わるほか、学校での防災  
学習の支援活動を中心に、  
災害、ボランティア、語り  
継ぎなどのテーマで講演も  
行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ…>



# 災害用伝言ダイヤルの 使い方を知らう

- テーマ**▶ 災害時は電話がつながりにくくなるため、連絡方法をいくつか知っておく  
公衆電話の場所や災害用伝言ダイヤルの使い方を知る
- 対象**▶ 小学部・中部部・高等部
- 教材**▶ ワークシート、筆記用具

埼玉県立川島ひばりが丘  
特別支援学校

教諭  
齋藤朝子

※本授業プランは、前任校の埼玉県立  
日高特別支援学校での実践

## 授業のねらい

- 災害時には何よりも公衆電話が有用であることを理解する。
- 公衆電話や災害用伝言ダイヤルが実際に使えるようになる。
- 家庭に持ち帰り家族でも体験する。

監修

諏訪清二  
(すわ・せいじ)  
防災教育実践交流会会長  
防災教育学会会長

防災学習アドバイザー・コラボレーター。国内外で防災教育のプロジェクトに関わるほか、学校での防災学習の支援活動を中心に、災害、ボランティア、語り継ぎなどのテーマで講演も行う。

取材・編集 一般社団法人社会応援ネットワーク  
防災教育実践交流会

## 学習の流れ…→

### 導入 1

#### 災害時に公衆電話に行列している画像について考えてみる

東日本大震災などの震災時に、携帯ではなく公衆電話に人が並んでいたのはなぜか？

- ・携帯電話を使っていない理由  
携帯で一斉に連絡しようとする  
と電話回線が対応できず(輻輳)  
使えなくなる。

(例) お正月の「明けましておめでとうメール」

災害時には携帯電話、固定電話が制限され、必要最小限の利用にとどめるため、公衆電話が優先通信手段となる。

- ・何軒にもかけたり長電話したりしない。
- ・電池が切れれば携帯電話も使えなくなる。

### 展開 1

#### 公衆電話の使い方を知る

現在では公衆電話の使い方知らない児童・生徒も多い。使い方を知っておくことでいざという時に有効に活用することができる。

- ① 電話をかけるのに必要なものを確認する。

・小銭(10円・100円)、テレホンカード→投入口の確認

・相手の電話番号(自宅や両親の携帯番号など)の確認。

触ったことのない児童には実際に触ってみて、ダイヤルキーの感触を確かめてもらう。

- ② 自宅や学校の近くなど、公衆電話がどこにあるか確認する。

相手がでなかったときには？  
→他の連絡方法を試す(考える)  
→共通の知人への伝言

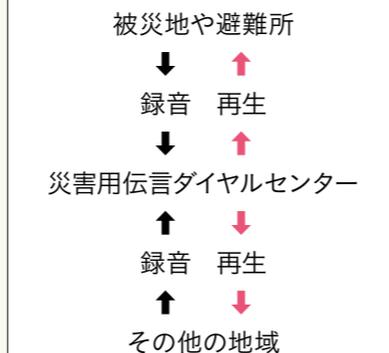
### 導入 2

#### 災害用伝言ダイヤル(171)について知っておく

家族や友だちと離れ電話が通じなかつたり出られなかつたりする場合に、自分の居場所や元気かどうか等の連絡を預けておくことができる。

- ・171と書かれたカード→数字の意味を知っているか確認

#### イメージ



※公衆電話や固定電話、携帯電話が利用可能

### 展開 2

#### 災害用伝言ダイヤルを実際に使ってみる

- ① 使い方の動画を見る。
- ② 伝えたい内容を30秒にまとめる。  
・内容を記述してみる→実際に言えるか確認  
時間が限られるとうまく言えないこともある。  
・内容の優先順位  
・話し方の確認

#### ★伝言内容をまとめるコツ

##### 「あいたいよ」

- あ あなたの名前 → 自分の名前を言う
- い いる場所 → どこにいるか
- た(だ) れと一緒に → 一緒に避難した人
- い たいところ → ケガや体調
- よ ころ → 次の連絡予定

- ③ 再生して確認する  
・伝え方はどうだったか、ふり返る。

### まとめ

#### 公衆電話の確認

- ・使い方 ・設置場所

#### 災害用伝言ダイヤルの認知

- ・使い方
- ・効果的な伝言内容
- ・お試し期間の確認と体験

#### 体験利用期間

- 毎月1日、15日  
00:00~24:00
- 正月三が日  
(1月1日00:00~1月3日24:00)
- 防災週間  
(8月30日9:00~9月5日17:00)
- 防災とボランティア週間  
(1月15日9:00~1月21日17:00)

災害時には携帯電話に頼らず公衆電話や災害用伝言ダイヤルを活用する。いざという時に困らないために、自宅で家族と一緒に体験しておく。

